

# 演 講

## 法感覚に違い、信頼関係の構築難しい

国際教養大学学長  
(国際関係論専攻)

なかじま  
**中嶋** みねお  
**嶺雄氏**



日中間の安心・安全は重要なテーマであります。日中間で安全・安心を確保することは実に難しいし、当面期待できないと思います。日中関係は、一時的にはともかく一度崩れるとなかなか修復できない「異母兄弟」の関係です。

「安心」は国民感情として相互信頼に立脚するものですが、中国という国のレベルで考えると、信頼関係の構築が難しい。昨年の反日デモに

はたいへん激しいものがあり、そういう状況では、中国と安心して付き合うことはできません。

普通に旅行をしていても今の中国

ではかなりの緊張を感じると思いますが。一方、同じ中華世界でも台湾には親日感もあり、日本人にとってはすく「安心」できます。

「安全」は個人のレベルというよりも、国家のレベルのことにあります。中国は最近、軍事的色彩が非常に強まっています。しかし、それは「民衆のための安全保障」ではなく「国家のための安全保障」です。台湾海峡の安全についても軍事力で威嚇し、さらに日中間も軍事力で威嚇しようとしています。

こうした状況の中で、昨年2月に

日米安保協議で「2プラス2」の合意がされたわけです。中国の脅威に対して大きな有効性を持つもので、その意味で、小泉外交を評価しています。

日中の安心・安全は最終的には法に依拠しなければなりません。しかし、両国間には法感覚の大きな違いがあります。日本は法治国家ですが、中国は法治国家とはいえませんが、中国は法治国家と見えませんが、従って中国が共産党の一党独裁体制をやめない限り、日中間には「安心」も「安全」もないということになります。